

平成 22 年度第 2 回普及に移す農業技術・技術情報（技術項目及び要約のみ）

番号	技術項目 要 約	担当場・部
1	<p><b>集落営農組織損益分配ソフト（農事組合法人版）は、収入差プレミアム方式による損益分配ツールとして活用できる</b></p> <p>〔要約〕 集落営農組織損益分配ソフト（農事組合法人版）は、使用収益権の設定による農地の賃借契約を結び水田農業を行う集落ぐるみ型の法人において、ほ場ごとの収入差を反映した分配計算を効率的に行うことが可能である。</p>	農試企画経営部、 農業技術課
2	<p><b>「コシヒカリ」の白未熟粒発生に影響を及ぼす諸要因について</b></p> <p>〔要約〕 水稻の白未熟粒発生は、1 穂当たり粒数が減少すると低下し、幼穂形成期に根を切断すると増加する。また、白未熟粒は登熟期間の気温が高いほど増加する傾向にある。さらに、無追肥条件で増加し、追肥により軽減する傾向がある。</p>	農試作物部
3	<p><b>掛け流しかんがいによる「あきたこまち」の白未熟粒軽減対策</b></p> <p>〔要約〕 「あきたこまち」において出穂後 20 日間の掛け流し灌漑、および出穂前後 2 週間の湛水管理を行うと白未熟粒発生の軽減効果がある。</p>	農試作物部
4	<p><b>平成 22 年高温による現地「コシヒカリ」、「秋晴」の白未熟粒多発とその要因</b></p> <p>〔要約〕 平成 22 年度の現地「コシヒカリ」、「秋晴」は、出穂後 20 日間の気温が高くなると白未熟粒の発生率が高くなる。移植日を遅くすると出穂日が遅くなり、白未熟粒発生が軽減される。</p>	農業技術課、農試作物部
5	<p><b>雑草性赤米は水田作業機の足回りと付属アタッチメントおよびコンバイン排出残渣から拡散する</b></p> <p>〔要約〕 雑草性赤米の種子は発生田においての耕起、代かき、田植え作業に用いるトラクターとロータリ、ハローおよび田植機に付着した泥に捕捉され、また、収穫作業時にコンバインから排出される残渣にも混在する。</p>	農試作物部、農業技術課
6	<p><b>雑草性赤米の多発による栽培水稻の減収</b></p> <p>〔要約〕 雑草性赤米の激発ほ場では栽培稲が最大 25% 減収する。</p>	農業技術課
7	<p><b>大豆転換畑における雑草性赤米の除草剤による防除効果</b></p> <p>〔要約〕 大豆のイネ科雑草対象の茎葉処理剤ポルトフロアブル、セレクト乳剤、ナブ乳剤、ワンサイド P 乳剤、畝間処理剤バスタ液剤および一年生雑草対象の初期土壌処理剤デュアール乳剤、ラッソー乳剤、ゴーゴーサン乳剤は雑草性赤米に除草効果が認められる。</p>	農試作物部、農業技術課
8	<p><b>加熱絞り充填豆腐試作法による大豆奨励認定品種の豆腐加工特性評価</b></p> <p>〔要約〕 加熱絞り豆乳による小規模充填豆腐試作法で試作した県内大豆奨励認定品種の豆腐破断強度は、蛋白質含有量の高い品種で高く、低い品種では低い傾向である。また、食味官能評価では品種間で違いが見られ、「ギンレイ」の豆腐は軟らかいが甘味が強くこくがあるなど、各品種にそれぞれ味、食感などの食味特徴がある。</p>	野花試畑作育種部
9	<p><b>SSR マーカーを用いた県職務育成あんず品種の識別</b></p> <p>〔要約〕 葉片から抽出した DNA を鋳型とし、2 種類の SSR マーカーを用いて解析することで、供試した 20 品種は県職務育成品種「信州サワー」を含め識別できる。</p>	農試知的財産管理部、 果樹試育種部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
10	<b>SSR マーカーを用いた県職務育成プルーン品種の識別</b> [要約] 葉片から抽出した DNA を鋳型とし、2 種類の SSR マーカーを用いて解析することで、供試した 23 品種は県職務育成品種「サマーキュート（プルーン長果 6）」、「プルーン長果 7」を含め識別できる。	農試知的財産管理部、果樹試育種部
11	<b>りんご「シナノゴールド」の高品質果実生産樹の樹相</b> [要約] りんご「シナノゴールド」では、早期に果皮色が黄色くなり、食味が良好な果実を生産する樹の樹相は、目通り付近のほぼ水平な結果枝の頂端新梢長が 11～15cm 程度である。	農業技術課、園芸畜産課
12	<b>りんごに対するスマートフレッシュくん蒸剤の鮮度保持効果</b> [要約] 収穫直後から 6 日後のりんご果実に対しスマートフレッシュくん蒸剤を処理することにより、長・短期貯蔵中の果肉硬度の低下が抑えられ鮮度保持期間が延長できる。	果樹試栽培部・育種部、南信試栽培部、旧農総試保鮮流通部
13	<b>りんご晩生品種「リング長果 20」の育成</b> [要約] 「リング長果 20」は、「ふじ」より 10 日程度早い 10 月末～11 月上旬に成熟する、果実の大きさが 300g 程度で食味が良く、みつに入る晩生品種である。本品種は「ふじ」の直前に収穫でき、着色が良好で毎年安定している。	果樹試育種部
14	<b>ぶどう「ナガノパープル」の強樹勢樹に対する主枝部への環状はく皮処理の効果</b> [要約] ぶどう「ナガノパープル」の強樹勢樹に対して、満開 30～35 日後に主枝部に幅 5mm の環状はく皮を実施することにより、果皮の着色、糖度上昇が早まり、収穫時の着色、糖度が向上する。	果樹試栽培部、農業技術課
15	<b>ぶどう「クイーンニーナ」(無核栽培)の品種特性</b> [要約] ぶどう「クイーンニーナ」の無核栽培では、果粒重 15～18g 程度と大粒で、肉質が良く、高糖度で食味の良い果実が生産できる。	果樹試育種部
16	<b>ナシ黒星病に強く、ナシ黒斑病抵抗性を有する日本なし早生品種「サザンスイート (南農ナシ 4 号)」の育成</b> [要約] 8 月中下旬に成熟し、食味が良好な早生品種「サザンスイート」を育成した。本品種は「幸水」よりも一週間ほど早く収穫可能であり、収穫期の糖度が「幸水」よりも 1～2% ほど高い。また、日本なしの主要病害であるナシ黒星病に強く、ナシ黒斑病には抵抗性を持つ。	南信試栽培部
17	<b>西洋なし「ラ・フランス」におけるヨード・デンプン反応低下遅延年の収穫法</b> [要約] 西洋なし「ラ・フランス」において満開後 165 日を経過してもヨード・デンプン反応指数が 3.5 以下に低下しない年は、満開後 165 日を経過後は直ちに収穫する。そのような果実でも正常に追熟して食味は優れる。	果樹試栽培部
18	<b>干し柿「市田柿」の原料果実に対するスマートフレッシュくん蒸剤の鮮度保持効果</b> [要約] スマートフレッシュくん蒸剤は干し柿「市田柿」の原料果実に対して鮮度保持効果が認められるが、収穫が早すぎる果実や、適熟期であっても果皮色が進みすぎた果実に対しては、十分な鮮度保持効果が得られない。	南信試栽培部

番号	技術項目 要約	担当場・部
19	<b>プルーン品種「サマーキュート」の育成</b> [要約] 8月下旬に収穫でき、外観・食味の優れる中生種「サマーキュート（プルーン長果6）」を育成した。結実性はよく、主要品種に比べて裂果が少ない。	果樹試育種部
20	<b>プルーン品種「プルーン長果7」の育成</b> [要約] 9月下旬に収穫でき、外観・食味の優れる晩生種「プルーン長果7」を育成した。結実性はよく、主要品種に比べて裂果が少ない。	果樹試育種部
21	<b>あんず「サニーコット」、「ニコニコット」の品種特性</b> [要約] 7月上旬に収穫できる「サニーコット」、「ニコニコット」（（独）農研機構果樹研究所育成）は外観・食味に優れる生食用あんずである。	果樹試育種部
22	<b>加工・業務用レタスの経営試算と栽培指針</b> [要約] 加工・業務用レタス栽培には、適品種の選定、疎植、固化培地育苗・全自動移植機の利用、大玉収穫、無選別出荷、切り口の無洗浄等を組み合わせることで、作業時間を短縮でき、加工歩留まりの高いレタスを生産できる。	野花試野菜部、佐久支場
23	<b>カラーピーマンの光照射による追熟技術</b> [要約] カラーピーマン栽培終了時の残果対策として、催色期（10～20%着色）の果実を収穫後、ポリエチレン製の袋で密封し光を照射することにより着色が促進され販売可能になる。	野花試野菜部
24	<b>生分解性マルチ「カエルーチ®」の特性</b> [要約] 生分解性マルチ「カエルーチ®」は、作業性や分解性が既存の生分解性マルチと同程度である。既存の生分解性マルチよりやや乾燥しやすく、品目によっては生育がやや遅れることがあるものの、実用性が高い。	野花試野菜部
25	<b>トルコギキョウの抑制11月切り作型</b> [要約] トルコギキョウの抑制11月切り作型は早生及び中生品種を用い、2週間程度の短日処理と電照による日長処理及び加温を行うことで、10月下旬から11月下旬まで切り花することができる。	野花試花き部
26	<b>夜間冷房及び地中冷却・地中加温がカーネーションの品質に及ぼす影響</b> [要約] ヒートポンプを用いて7月～9月に夜間冷房または地中冷却を行うことで切り花重が増加し切り花品質が向上する。低温期に約16℃の地中加温を行うことで切り花長が長くなる。	南信試栽培部
27	<b>アルストロメリアの茎葉管理技術</b> [要約] 据え置き栽培では60～90本/m <sup>2</sup> の立茎数を目標に管理する。立茎数が多い場合は間引き及び芽整理を行うことで収量及び品質が向上する。夏期（6～8月）収穫を行うと年間の収量は増加するが、収穫量を増やすと9～12月の収量が減少するため、品質や株の状態によって夏期の収穫量を調整する。	南信試栽培部
28	<b>ヒペリカムの2度切り栽培技術</b> [要約] 6月下旬に主枝を1株当たり10本残して芽整理を行い、8月以降に電照を行うことで季咲き（7月下旬）収穫と秋期（10月上～中旬）収穫の2度切りが可能である。2度切り栽培ではさび病に罹りにくい品種を選定する。8月～9月の気象条件により収量及び品質が変動することに注意する。	南信試栽培部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
29	<b>エノキタケ高生産性培地のコーンコブミールならびにコメヌカの代替資材</b> [要約] エノキタケ高生産性培地「YK2」のコーンコブミール代替資材として、バガスパウダー（サトウキビ茎葉粉碎物）、モミガラ粉碎物およびソルガム茎葉粉碎物が有望で、バガスパウダーは全量、モミガラ粉碎物およびソルガム茎葉粉碎物は50%程度まで代替可能である。また、コメヌカの代替資材として、一般フスマは50%程度まで代替可能である。	野花試北信支場菌茸部
30	<b>トウモロコシ黒穂病抵抗性の新たな評価法</b> [要約] トウモロコシ黒穂病の圃場接種法において、病徴を11種類に分類して調査することで、国内育成自殖系統の黒穂病抵抗性が評価できる。	野菜試畑作育種部
31	<b>ウォーターカップの吐水量の違いが生乳生産に及ぼす影響</b> [要約] タイストール乳牛舎において、ウォーターカップの吐水量を4kg/分から12kg/分に増やすと、1日あたりの飲水量が増加し、乾物摂取量及び乳量の増加が期待できる。	畜試酪農肉用牛部
32	<b>高消化性ソルガムサイレージは採食性に優れ乳用育成牛の飼料として十分に利用できる</b> [要約] 高消化性ソルガムサイレージは乳用牛育成期飼料として利用でき、乾物摂取量の20%程度を給与する場合、慣行飼料と同等の発育を確保できる。	畜試酪農肉用牛部
33	<b>ソルガムを原料としたきのご収穫後培地の飼料成分及び栄養価</b> [要約] きのご培地原料にソルガムを40%用いた収穫後培地の乾物中成分は、粗蛋白が20%、粗灰分が15%と多く、NFCは7%と少ない。消化率は粗蛋白、NFCで低くTDNは乾物中47%である。	畜試酪農肉用牛部
34	<b>肥育後期に粉碎粃米添加飼料を給与した豚の発育と肉質成績</b> [要約] 市販配合飼料に粉碎した粃米12%を添加して肥育後期豚に給与しても発育及び飼料要求率に影響はない。枝肉では脂肪色の明度がやや低いが、筋肉内粗脂肪割合及び皮下脂肪内層の脂肪酸組成は玄米10%添加及び無添加と差はない。	畜試養豚養鶏部
35	<b>「信州黄金シャモ」における粃米の嗜好性</b> [要約] 粃米全粒は、単味飼料として給与した場合、配合飼料に対して嗜好性は劣るが、配合飼料に添加することにより嗜好性は向上し、選択採食される。	畜試養豚養鶏部
36	<b>除草剤を使用しないソルガムの散播・密植栽培におけるタイプ・品種間差異</b> [要約] ソルガムの散播・密植栽培は、品種によりその適性が異なる。この栽培への適性が高いスーダン型ソルガム「涼風（東山交31号）」は播種量が10aあたり6kgの場合でも雑草発生量が少ない。	畜試飼料環境部
37	<b>スーダン型ソルガム「涼風（東山交31号）」の1番草刈り取り適期</b> [要約] スーダン型ソルガム「涼風」の1番草刈り取り適期は止葉期～出穂始であり、1番草の刈り取りが遅れた場合、1番草の飼料品質および2番草収量が低下するなどの影響がみられる。	畜試飼料環境部
38	<b>ブロッコリー栽培では速効性肥料と緩効性肥料のいずれを用いても収量及び品質に差はない</b> [要約] ブロッコリーの春まき及び夏まき作型において、速効性肥料と緩効性肥料では花蕾の収量及び品質に差はなく、価格の安い速効性肥料を用いた方がコスト的に有利である。	野花試環境部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
39	<p>窒素追肥時期の違いが干し柿「市田柿」原料かきの生育、果実収量および品質に及ぼす影響</p> <p>[要約] 干し柿「市田柿」原料かきに対して6月に窒素の追肥を行う場合、現行の施肥基準の8月に行う場合と比べ、幹周肥大、1結果枝当たりの着果数、果実肥大、葉身および収穫果実中の窒素濃度、果実収量および果実品質は同等である。</p>	南信試栽培部
40	<p><b>水稻の種子伝染性細菌病害の発生に影響を及ぼす育苗培土の諸性質</b></p> <p>[要約] 水稻の種子伝染性細菌病害の発生は、育苗培土の吸着性、pHおよび粒径の影響を受ける。</p>	農試環境部
41	<p><b>コムギ赤かび病の薬剤処理時期と防除効果の関係</b></p> <p>[要約] コムギ赤かび病の防除においては感染前の予防防除の効果が最も高いが、感染後2～3日以内に防除を行うことで実用的な効果が得られる。</p>	農試環境部
42	<p><b>コムギ赤かび病の感染リスクの目安</b></p> <p>[要約] コムギ赤かび病の感染リスクが高まる濡れ時間と濡れ時間中の温度の組み合わせ（暫定版）を作成した。</p>	農試環境部、農業技術課
43	<p><b>リンゴ褐斑病の効率的な防除法</b></p> <p>[要約] リンゴ褐斑病の防除では病勢進展期初期の防除が特に重要で、慣行防除に加え7月上旬～中旬にベンゾイミダゾール系薬剤（ベンレート水和剤またはトップジンM水和剤）を1回散布することで、秋季まで高い防除効果が得られる。また、本病は薬剤の散布むらが生じるような状況下で多発する傾向があるので、薬剤散布にあたっては留意する。</p>	果樹試環境部
44	<p><b>県下各地から採取したブドウべと病菌のストロビルリン系薬剤に対する薬剤感受性</b></p> <p>[要約] ストロビルリン系薬剤に耐性を持つブドウべと病菌が県下ぶどう産地の広域において確認された。これら薬剤耐性菌に対し、ストロビルリン系薬剤の防除効果は得られない可能性が高い。</p>	果樹試環境部
45	<p><b>ズッキーニから検出されるウイルス種とその病徴</b></p> <p>[要約] 長野県内のズッキーニから検出されるウイルスは、キュウリモザイクウイルス（CMV）、カボチャモザイクウイルス（WMV）、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス（ZYMV）で、病徴はそれぞれのウイルス種により異なり、特に果実病斑で特徴的である。</p>	野花試環境部
46	<p><b>りんご園の土着ミヤコカブリダニによるナミハダニの密度抑制効果</b></p> <p>[要約] りんご園に発生する土着ミヤコカブリダニはナミハダニを捕食し密度を抑制する。</p>	果樹試環境部
47	<p><b>ニホンジカの被害を受けにくい農作物</b></p> <p>[要約] シヤクヤク、ユーカリ（プルバルレンタ）、ユーフォルビア（グリフィティ、ロンギフォリア）、クリスマスローズ（ヘレボルス・オリエンタリス）、エゴマはニホンジカの嗜好性が低く、出没が多い地域においても被害の少ない品目である。</p>	農試企画経営部
48	<p><b>カラス被害対策における簡易的防鳥糸の設置方法</b></p> <p>[要約] 防鳥糸牽引装置を用いた防鳥糸の設置方法は簡便、安価で労働強度も軽減できる。</p>	農試企画経営部
49	<p><b>ニホンザルの被害を受けにくい農作物</b></p> <p>[要約] たかのつめ、こんにゃく、ごぼう、さといも、ピーマン、みょうが、ゴーヤ、オクラ、エゴマ、サンショウ、きび、やまいもはニホンザルの被害を受けにくい農作物である</p>	農試企画経営部

番号	技術項目 要 約	担当場・部
50	<b>鉄製ネットを加工した箱型ガードでばれいしょのニホンザル被害を回避できる</b> [要約] 市販の鉄製ネット（メッシュネット）を加工した箱型ガードをばれいしょの播種直後から畝の上にかぶせ、ペグで固定することにより、ニホンザルの被害を回避できる。	農試企画経営部
51	<b>ニホンザル対策の従来型サル用電気ネット柵の設置後の状況と課題</b> [要約] 県内において、農地へのニホンザル侵入防止用として導入されている従来型サル用電気ネット柵は、設置方法、管理の不備などから柵内にニホンザルの侵入が見られるため、設置前の適正な設置方法の確認、設置後の適正な維持管理が必要である。	農試企画経営部

※普及に移す農業技術のうち試行技術は、農業関係試験場で育成、開発又は実証され、農業発展に寄与する技術及び情報のうち普及技術とするにはまだ未解決の部分があつて適当でないものの、おおむね生産技術の向上に役立ち、試行する価値があるものです。

毎年、10月と2月に普及技術検討会で審査され、公表されます。**試行技術の詳細については、お近くの農業改良普及センターへお問い合わせください。**

#### 農業改良普及センター一覧

普及センター名	所在地	電話番号
佐久農業改良普及センター	佐久市大字跡部 65-1 佐久合同庁舎内	0267-63-3146
上小農業改良普及センター	上田市材木町 1-2-6 上田合同庁舎内	0268-25-7157
諏訪農業改良普及センター	諏訪市川上 1-1644-10 諏訪合同庁舎内	0266-57-2932
上伊那農業改良普及センター	伊那市大字伊那 3497 伊那合同庁舎内	0265-76-6842
下伊那農業改良普及センター	飯田市追手町 2-678 飯田合同庁舎内	0265-53-0436
木曾農業改良普及センター	木曾郡木曾町福島 2757-1 木曾合同庁舎内	0264-25-2230
松本農業改良普及センター	松本市大字島立 1020 松本合同庁舎内	0263-40-1947
北安曇農業改良普及センター	大町市大字大町 1058-2 大町合同庁舎内	0261-23-6543
長野農業改良普及センター	長野市大字南長野南県町 686-1 長野合同庁舎内	026-234-9534
北信農業改良普及センター	中野市大字壁田 955 北信合同庁舎内	0269-23-0221